

教育委員会会議の概要（令和5年7月臨時会）

- ◆ 日 時 令和5年7月19日（水）午後2時00分から午後6時03分まで
- ◆ 場 所 教育局 第1会議室
- ◆ 出 席 者

教 育 長	福 田 洋 之	出 席
委員・教育長職務代理者	花 渕 浩 司	出 席
委 員	梅 田 真 理	出 席
委 員	川 又 政 征	出 席
委 員	後 藤 由 起 子	出 席
委 員	山 田 理 恵	出 席
委 員	庄 司 弘 美	出 席

◆ 会議の概要

1 開 会

2 議事録署名委員の指名 後 藤 委 員

3 協 議 事 項

（1）令和6年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書の採択について

（教育指導課長、教育センター担当指導主事 説明）

【図画工作】

教 育 長 「図画工作」について協議を行う。事務局から、学習指導要領の目標等についての説明をお願いする。

教 育 指 導 課 長 担当指導主事からご説明する。

指 導 主 事 小学校「図画工作」について説明する。小学校「図画工作」では、表現及び鑑賞の活動を通して造形的な見方、考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成することを目標としている。

協議会において取りまとめた小学校「図画工作」の全発行者の特長は、別紙資料1報告の別紙1の21ページに示している。

主な特長について、まずA者は、使用する道具や活動など、必要な情報が見開きでまとめられており、各題材の学習の目当てや振り返りなどが分かりやすく提示されているということである。

B者は、材料や用具について、具体的な使い方やポイントが分かりやすく提示され、三つの資質・能力を色分けして示すなど、学習目標を児童がつかみやすくなるように

配慮されているということである。

教 育 長 ただいまの事務局の説明に対して、質問があればお願いします。

(質疑なし)

教 育 長 それでは、各発行者の教科書見本本について、委員の皆様の意見をいただきたい。

梅 田 委 員 まずA者は、冒頭に様々なアーティストとその作品が示されていて、創作活動に興味を持って取り組めるように工夫されていた。また、「くふう」「ひらめき」「こころ」という三つのキャラクターそれぞれの色が決まっていて、その色で年間の活動が大別されており、分かりやすく示されていた。それから、教科書のテーマが表紙に示されているとともに、造形は様々な素材を使って、児童が想像力を湧き立たせて活動に取り組めるよう工夫されていた。ページ構成と指導内容について、単元左上には使う道具や材料、右下には片付けや振り返りのポイントが示されていて、大変分かりやすい。巻末には「学びの資料」として、用具などの使い方の説明が示されている。また、タブレットを使って学習するときのポイントについても示されている。さらに、5、6年生では、「小さな美術館」や「みんなのギャラリー」というページがあって、そこでは伝統工芸や地域の文化、あるいは芸術作品など、様々なアートを紹介するコーナーがあり、児童がそれらに触れられるように工夫されていた。

B者は、各学年のテーマが示されていて、大きな写真とともに何を学ぶかが分かりやすく提示されていた。また、様々な素材を使った活動の写真があり、児童が興味を持って取り組めるよう工夫されている。また、絵や工作、立体造形などの表現活動には必ず鑑賞がセットになっていて、作品を見て話し合う活動が組み込まれていた。ページ下部には、注意点や片付けのポイントが示されていて分かりやすくなっていた。巻末には「材料と用具のひきだし」というページがあって、学年に応じた道具の使い方が、ICTも含めて示されている。児童の活動写真が効果的に使われていて、興味を持って取り組めるようになっていると思う。また、「教科書美術館」というコーナーが取り入れられており、すばらしい作品が美しい写真とともに掲載され、児童の学びにつながるよう工夫されていた。

川 又 委 員 まずA者は、1、2年生の上巻の初めの部分において、文字がやや多く、小さな文字も出てくるので、1年生向けとしては、言葉の表現が少し難しいような気もした。だが、全体としてこの教科書の使い方は、図版や写真によって入門していくという形態になっていて、教科書の文字を読んでいくということではなく、教科書を眺めていくという考え方で構成されていると感じた。また、図画工作は、美術的な側面と技術的な側面があると思う。それらの側面が、将来の職業や生活と結び付けられ、関連性がよく示されていると思った。高学年になると、美術や工芸の伝統や歴史が紹介されていて、抽象画も紹介されていたが、それらの中には単に技術や工芸が美しい、楽しいということではなく、人間社会のある意味で負の側面や暗い側面も暗示するような内容も示されていて、これはこの教科書の特長だと思う。

B者は、1、2年生の上巻の初めのところで、文字が多く、小さいので、やはり教科書を読むのではなく、見ながら、図画工作の学習をしていくというスタイルだと思う。折り込みページが充実しており、図画工作の面白さ、広がりをよく紹介していると思う。また、様々な道具の種類と使い方、材料の種類と性質、取扱い方がよく説明されている教科書だと思う。紙面の様々なところに吹き出しを用いた表現があり、児童間の会話やコミュニケーションを促すように工夫されていた。

後藤委員 どちらも児童の興味・関心を大切にして、美しいものや自然の生み出す様々な造形美に感動する心を育むように配慮されている教科書だと思った。

A者は、児童に語りかけ、興味や関心を引く言葉の使い方が大変上手だと思った。見出しで児童の好奇心を高めていて、わくわく感を持たせ、楽しく取り組めるというところは大きな特長だと思う。

B者は、身近にある美しさや、身の回りの造形美への視点があり、児童が自ら発見する喜びがあると思った。児童の生活の実態に広く対応し、主体的な学びが実現できる工夫がされていると思う。

山田委員 A者は、学年ごとに、資質・能力の育成がバランスよく構成されていて、立体工作の分野が分かりやすく交互に出てくるのが良いと思った。また、「くふう」「ひらめき」「こころ」のキャラクターが、その章の学習の目当てを分かりやすく説明している。それから、各ページの下部に、二次元コードや「さんこう」「かたづけ」「ふりかえり」「あわせて学ぼう」などのタグが配置されていて分かりやすい。生活が便利になるものをつくる、皆でアイデアを出して企画書をつくる、プログラミング作品など様々な作品づくりにチャレンジできる教科書になっている。

B者は、学習の目当てに、その章で感じることを、考えること、楽しむことを明確に出している。段階的に系統立てて、複雑で高度なことにトライできるようになっている。全体的に、ただつくる、描くだけではなくて、美術作品を見て感じたことを話し合う、材料の触り心地を利用してストーリーをつくる、写真から感じたことを発展させて絵を描くなど、図画工作を通じて考え、発見させる内容になっていて、主体的な学習を行うための工夫がされていると思う。学習内容は多少高度なイメージなのだが、自主性を重んじ、自分でいろいろ考えて工夫していくという発想が豊かになりそうだと感じた。

庄司委員 2者ともに共通して感じたことは、子どもたちの表情がとてにこやかで、和やかで仲の良い写真が使われているので、児童が楽しんで図画工作の学習ができるなというイメージを持った。

A者は、教科書の表紙にテーマがあり、ページを開くと、見開きでそのメッセージが大きく目に入ってきて、児童の興味・関心を引き出す工夫がされていると感じた。学習を深めるための「くふうさん」「ひらめきさん」「こころさん」という3人のキャラクターがいて、学習の目当てを明確に示し、1題材2ページですっきりとまとめられている。学習の目当てのほか、ページの下部には「タブレットたんまつで見てみよう」や「さんこう」「かたづけ」「ふりかえり」「あわせて学ぼう」などもあり、大変分かりやすく、使いやすくなっていると思った。

B者は、表紙の右上に小さな文字でテーマが書いてある。興味・関心を引き出すような言葉があって、大変良いと思った。1単元見開きで学習の目当てや材料、用具について、「気をつけよう」「かたづけ」「ふりかえり」とポイントごとに示され、大変見やすく配置されており、工夫が感じられた。

花淵委員 A者は、目次が非常に工夫してあると感じた。年間の学習が見開きの中で一覧できるように表示されていて、児童はここを見るだけで、この時期にはこんなことを学ぶという見通しを持って、学習を進めることができるのではないかと感じた。また、写真の子どもたちの表情が非常に生き生きしており、それを見ることによって、実際に学びの中でやってみたいという児童の意欲の喚起にもつながるのではないかと思っ

た。

B者は、「図工のみかた」「ふりかえり」のページなどがあって、個々の発想が広がるように工夫されていると思った。また、活動中の対話を促す「アートカード」というのがあって、様々な鑑賞方法を紹介しており、学習の広がりにつながるのではないかと感じた。

教 育 長 皆様からそれぞれの見本本の特長についてご意見をいただいた。それらも含めて、確認したいこと、質問などがあれば、お願いしたいがいかがか。

(意見なし)

教 育 長 それでは、これまでの意見も踏まえて、どの発行者の教科書がよいのか、一者に絞り込んでいきたいと思う。皆様から、ご発言をお願いする。

花 淵 委 員 A者の「くふうさん」「ひらめきさん」「こころさん」という三つの学習の目当ては大変分かりやすいと思った。これがどの単元でも左側のページに示されていて、なおかつ、その三つの中で特に大事なものは赤で表示され、アンダーラインが引いてあった。この単元ではここに注意する、これが学習の目当てだということが分かるようにはっきりと示してあるのは大変良いと感じ、私はA者が良いのではないかなと思う。

梅 田 委 員 どちらも非常に工夫された教科書で、子どもたちの表情も非常に豊かな写真が使われていて良いと感じたが、それぞれの制作活動の写真を見ると、A者の方が、子どもたちの活動の様子が大きく写し出されている。何をするのがつかみやすく、文字を読まなくても写真を見ることで、どんなふうに学びを進めればいいかが分かりやすく描かれており、この単元では何を作るのか、この単元では何をやるのが大変分かりやすく示されていると感じたので、私はA者が良いと思う。

庄 司 委 員 A者が良いと思う。学習の目当てで、「くふうさん」「ひらめきさん」「こころさん」が、ここに気を付けてという点を初めに示すことで、そこで学ぶことがはっきりし、大変良い。特に大切なところは、赤文字でアンダーラインが引いてあり、なおかつ、例えば1、2年生の上巻の20ページ、21ページの学習の目当ては「さわってかくきもちよさをたのしむ」だが、右のページで「こころさん」から「てでかくきもちよさをあじわってね」と、同じ内容だが一歩進んだアドバイスがあって、大変分かりやすく、児童が楽しく取り組めると思った。

川 又 委 員 A者を推薦したいと思う。図画工作のところでも、図画のほうではなく、どちらかというところの面で、昔でいう技術・家庭科のような側面がきちんとあり、道具の使い方や材料の取り扱い方など、日常生活に密着した部分が非常によく書かれているため、A者が良いと思う。

後 藤 委 員 A者が良いと思う。低学年の最初の導入部分でのわくわくさせる仕掛けが大変上手に使われており、楽しいと思えることが大切だと思うので、A者を薦める。

山 田 委 員 B者が良いと思う。それぞれのコンテンツで、何をするのか、何を作ろうとしているかということをしごく考えさせ、5、6年生で比較すると、B者の方が難しいことをしている。少し変わった視点で話し合いながら、自分の考えを美術に生かしていくところが多く、今までの教科書とは違う視点で作らせる、考えさせる美術になっている感じがしたので良いと思っていた。A者は、どちらかというところ今までの図画工作の流れで、内容も児童に即していると思うので、それでも良いという気がする。B者は、いくつか高度な内容のものも入っていたおり、先生方がこれをやるのは少し難しいかもしれないと思ったので、A者で良いと思う。

教 育 長 皆様から一通りご意見をいただき、A者で良いのではということかと思う。学習の目当てとなるキャラクターが非常にうまく使われているということや、写真や道具の使い方、低学年のわくわく感といったことであつたと思う。B者は、少し考えさせるようなところもあるということであつた。全体的にはA者が採択候補で良いと思うが、よろしいか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、A者を採択候補としたいと思う。今日議論いただいた内容を採択の理由等として、事務局で整理のうえ、7月25日に最終的に決定したい。

【理科】

教 育 長 「理科」について協議を行う。事務局から、学習指導要領の目標等についての説明をお願いします。

教育指導課長 担当指導主事から説明する。

指 導 主 事 小学校「理科」について説明する。小学校「理科」では、自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察実験を行うことを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を育成することを目標としている。

協議会において取りまとめた小学校「理科」の全発行者の特長は、別紙資料1報告の別紙1の23、24ページに示している。

主な特長について、A者は、SDGsとの関連を提示しており、現代的な課題を意識することができるようにする工夫がされているということである。

B者は、学習のつながりで、生活科を含む既習内容や中学校の学習内容が示されており、系統性に配慮されているということである。

C者は、外国人のイラストや環境マークを提示しており、多様性や生命尊重に配慮されているということである。

D者は、宮城の災害の写真など自然災害について取り上げられており、防災教育を身近なものとして取り組むことができるように配慮されているということである。

E者は「くらしとリンク」で、児童の生活や社会とのつながりが示されており、理科への興味・関心を高めることができるように配慮されているということである。

F者は、身近な遊びや活動などから、問題を見出すことができるようになっており、発達の段階や系統性に配慮されているということである。

教 育 長 ただいまの事務局の説明に対して、質問があればお願いします。

(質疑なし)

教 育 長 それでは、各発行者の教科書見本本について、皆さんの意見をいただきたい。

川 又 委 員 A者は、全学年共通のものとして、最初の方のページに「理科モンスター」というキャラクターが示され、理科での思考や記録、発見といった力を楽しく身に付けられるよう工夫されている。また、器具の使い方、理科室の使い方、様々な理科の学習での注意事項が丁寧にまとめられている。全学年の教科書の裏表紙には、SDGsの目標と学習内容との関連性が分かりやすく記載されていて、現代的な理科の課題が示されている。また、日本人科学者、ノーベル賞受賞者等の業績や言葉も紹介されていて、理科から科学に発展するような、興味の引き方が優れていると思う。登場人物についても、学年ごとに同じ登場人物が成長して理科を学んでいく姿が描かれているところ

が特長かと思う。

B者は、全学年の裏表紙に「安全の手引き」が書かれていて、実験や観察をする上でとても重要なことだと思う。また、フォントの大小や種類が明確に使い分けられていて、説明手順の大項目、中項目、小項目という説明の構造がはっきりとしている。イラストや写真が鮮明なものになっており、これによって理科の説明が明快にできるような紙面構成になっている。さらに、科学者や文化人、スポーツ選手といった方々からの親しみやすいメッセージが記載されている。

C者は、問題の見つけ方、予想、計画、観察、実験、結論という理科的な思考の手順が明確に示されており、全体にわたってこのような観点で書かれている。また、図版が適切に配列されていて、教科書全体の見た目という大変見やすい紙面となっている。図、単純化された絵やイラストが適切に配列されていて、全体的に余裕のある紙面になっている。理科で学ぶ素朴な内容に加えて、その内容が現在の高度な科学技術にどのようなつながりを持っているかという紹介が多数あり、児童の生活の中で、高度な科学技術がどのように役立っているかが示されている。

D者は、教科書の判が大きく、それを生かした大変読みやすい紙面づくりになっている。図版や写真が大きく、独特の空白の生かし方も感じられて、大変読みやすい。大きな教科書ということで、人物や写真も大きく扱われており、教科書に親しみやすくなっている。また、宮城県、仙台市等の災害に関して多く取り上げられていて、仙台市が目指す教育に関する内容が盛り込まれている。D者では、理科とプログラミングについて必ず記載されている。特にプログラミングは、単に数字の計算ということではなく、様々な実験や作業の手順という意味でのアルゴリズムという形で記載されているところが特長かと思う。

E者は、全体として、非常に標準的とも呼べるような教科書の表現や体裁であると思う。天気や気象情報と災害、また、地学的な側面で火山や地震と災害についての記載が充実しており、仙台市が目指す防災教育につながる内容が多数盛り込まれている。さらに、「理科につながる算数のまど」という項目があり、理科と算数の関係、算数を利用した理科という内容が盛り込まれている。E者では、STEAM教育、数学や技術、芸術、エンジニアリングというような観点で教科書が書かれていると思った。

F者は、地域性を意識した教科書のつくりになっており、理科で学ぶ生活的な面、自然、社会に関連した題材が、地域の写真や地域での登場人物という形で多数盛り込まれている。この点は、仙台市が目指す教育と少し内容的に異なるかもしれないが、教科書や教育のあり方として、大いに評価すべきであると思う。それに関連して、理科での観察や実験の説明、題材が、良い意味で素朴な点があり、原理的なところ、単純化された内容という意味で、児童にとって取り組みやすい観察、実験内容である。また、季節感や地域の様々な地学的な内容に直接的に関連する学習計画が示されている。文化人や科学者の言葉や業績の紹介があり、これも地域に根差した方が紹介されている。

後藤委員 A者は、「理科モンスター」と一緒に理科の世界を冒険しようという切り口と姿勢で、発見する、予想する、考えるなど、取り組み方を発達の段階に応じて分かりやすくキャラクターで説明している。一緒に実験を行っていく登場人物たちの感想が吹き出しで入っているが、児童のキャラクターの吹き出しのせりふが控え目で、クラスメートと一緒に実験を行っているような気持ちになった。

B者は、最初に前の学年で習ったことをまとめ、その後に自分たちの考えを伝え合い、学び合おうとするなど、言語活動に配慮している。さらにその後で、ノートの取り方にも配慮し、そこから学習に入るといふ、大変丁寧なつくりになっていると思った。実験の説明が分かりやすく、特に6年生の9ページ、一番下に、「集気瓶の中の空気が変わったのかもしれないね」という発言があるが、この視点を示しているのはB者のみであった。他者では、空気を入れ替えなければならないねとだけあったが、児童の中には、空気を入れ替えるだけではなくて、空気が何か変わってしまったと思う子供もいるのかもしれない。この「見方のカギ」となっている赤い文字のところは、いろいろな児童の見方を表していて、学習につまずいたり、置いていかれたりしてしまうような児童にも、解決へのヒントとして役立つ吹き出しなのではないかと思った。

C者は、資料として配置されている「りかのたまてばこ」は興味深く、充実していると思う。日常で役立っている理科の有用性を示していて、児童の興味・関心を引き、なおかつ、発展的な学習ができるように配慮されていると思った。また、まとめ問題では、記述式の設問が複数あり、児童の思考力を深め、発展的な学習が期待できるので良いと思った。実際これから先のテストなどで、こういった記述式で考え方を問う問題が多く出ると思うので、複数あることは大変良いと思った。

D者は、「ふりかえろう」では、ノートにまとめる形式で振り返りのまとめが提示されている。このD者のノートにまとめる形式の振り返りが大変よかったが、上の方に小さく黒い字で「学ぶなかでわかったことを、自分なりにまとめてみましょう。」という言葉が書いてあって、これは理科の学習の中でとても大切な声掛けなのではないかと思った。これは「ふりかえろう」のノートのまとめるところに必ず明記されていて、このとおりに児童に取り組んでもらいたいと思った。ノートにまとめることで知識の定着が図れると思う。また、プログラミングも充実し二次元コードも多く配置されていて、とても興味深い。川又委員もおっしゃっていたが、写真が大きく迫力がありわかりやすいというのも特長だと思った。

E者は、「ふり返ろうまとめノート」では、ノートにまとめる形式というものが提示されていて、巻末でもノートの取り方を丁寧に説明していた。また、二次元コードが数多く配置されていて、総じて、紙への記述とデジタルの活用とのバランスが大変良くて、知識の習得に対して必要な手法を提示している教科書だと思う。

F者は、日本の四季を意識して、季節に応じた観察や栽培など、身の回りの自然から理科を学ぶ配慮があった。手書き風のフォントの文章は本当に温かくて、児童が自らメモやノートを取るように促していると感じる。理科に対する苦手意識を持たせないような工夫として評価した。

山田委員 A者は、巻末に「考えよう調べよう」というコーナーがあって、考え方、調べ方、まとめ方が具体的に示されている。また、道具の使い方がまとめて記載しており、学習途中でも探しやすいと思った。各章の「やってみよう」で、単元に関連したいろいろな実験の方法など、主体的に取り組むことができるように工夫されていた。「いかす」では、おもちゃ作りが扱われており、生活に生かすことができると思った。他の方の話にもあったが、各章の内容とSDGsの関係というのを、裏表紙にまとめて示してあるのが良いと思った。

B者は、最初に生活科や前の学年で学んだことの説明があり、次に、その年に学ぶことが記載されていて、流れが分かるようになっている。学習の進め方やノートの取

り方が最初に記載されていて、実験や観察の手順が分かるようになっている。また、「学びを広げよう」、「資料」、「チャレンジ」、「科学のまど」という項目があり、いろいろな情報が掲載されていて、学習内容を生かした活動や、追試の実験などができるようになっている。この「資料」には、関係するSDGsのマークがついていたり、「ミニずかん」には気象や天体、SDGs等についての記載がある。いろいろな有名な先生方からの一言が載っているというのが特長だと思う。

C者は、「りかのたまてばこ」や「サイエンスワールド」という資料や、昔のお話などが載っている。それぞれの章に合わせて、一歩先の知識や、中学校で学ぶことなども知ることができる。また、防災のページも、災害への備えについて調べるような内容になっている。また、巻末に「理科の学びに役立てよう」があり、算数科とのつながり、ノート書き方、記録の仕方、図書館、理科室や器具の使い方などがまとめてあるのが良いと思った。それから、もう一歩進んで学びたい児童用に発展マーク、SDGsマーク、環境、防災、科学技術など内容が分かりやすくマークで提示されている。カーボンニュートラルや防災についての説明、プログラミングのページ、実際にプログラミングをして装置を動かす実験ができることも6年生では載っている。

D者は、最初に理科の学びが示されていて、授業の流れが分かりやすくなっている。「理科とSDGs」「理科とプログラミング」では、スマート農業や防災対策等の記載もあって、時流に合った内容になっている。各章最後に、「こんなところにも！理科の世界たんけん部」があり、先端的な技術情報、伝統文化を支える技術、インタビューなどが載っているのが良いと思った。巻末に「理科の調べ方を身につけよう」というコーナーがあって、算数科との関連や各器具の使い方の説明がまとめてあるのが良いと思う。写真が多く使われており、文字も大きくて見やすいというのが、この教科書の特長である。

E者は、各章最後に「くらしとリンク」というコーナーがあって、学んだことと、暮らしがつながるという内容を示している。それから、「with the Earth」というコーナーでSDGsと関連した内容や、防災に関する内容が出ていて、仙台版防災教育と関連している内容で良いと思った。巻末の「理科につながる算数のまど」で、理科での算数の使い方、「ものづくり広場」で簡単なものづくり、「理科の見方・理科の考え方」がまとめて記載されているのが良いと思う。最後に「ふり返ろうまとめノート」があり、イラストや表を活用して振り返った内容を自分でまとめて、「たしかめよう」では小テスト形式で内容をまとめるようになっている。基礎的・基本的な学習内容を定着できる工夫がされていると思った。この教科書も写真や絵を大きく使っていて、わかりやすいと思う。

F者は、他者の教科書は実験器具の使い方をまとめて記載しているものが多いが、この本は各章のその器具を使うところにその説明が出ており、理科室の使い方、ほかの本は最後の方にあるが、この本は最初に出てきていて、入りやすく、見やすいということがあると思った。

庄 司 委 員 A者は、「理科モンスター」というキャラクターが、單元ごとに、身に付けたい力を明確に表していて、児童が親しみ楽しみながら学習できる工夫があると思った。また裏表紙にはそれぞれの單元が、SDGsとの関連を提示していて、現代的課題の意識付けになるという工夫があって、とても良いと感じた。

B者は、単元の初めに「学習のつながり」があり、生活科を含む前の学年での内容

や、中学校に続く学習内容が示されていて、学習の系統性に配慮されていると感じた。また、「学習前の〇〇さん」や「学習後の〇〇さん」では、学習を通して自分を振り返ることができるようになっており、そこも小さな気付きだが、大切な内容であると思った。

C者は、児童のイラストには吹き出しで、問題提起や考え方など方向性が示されていて理解しやすいように工夫されていると感じた。また、「ココに注目」というのが導入部にあり、児童が問題を見つけ、予想しやすくなるような工夫がされていると思った。

D者は、単元の導入部にある「レッツトライ！」では、写真やイラストなどから、問題をつかむ、調べる、まとめるなど、主体的・対話的な学びができるような工夫がされている。また、イラストには吹き出しの言葉があり、それを手掛かりに問題解決できるように工夫されていると感じた。宮城の災害の写真など、自然災害についても取り上げられており、防災教育を身近なものとして取り組むことができるという点が大変良いと思う。

E者は、キャラクターの吹き出しに見方や考え方のヒントがあり、問題解決に向けて言語活動が充実するように工夫されていると思った。実験のまとめの後に、「もっと知りたい」というコーナーがあり、学習したことを生かし、児童が発展的にその先に進める工夫が感じられた。

F者は、単元の導入部分では、理科の原理を生かした身近な道具であったり、日常生活場面の写真などを示して、学習内容と生活の経験をつなげたり、普段から問題意識を持つような工夫があると感じた。資料では、学習内容に関する様々な知識や学習の興味・関心が持てるように工夫されていると思った。

花 瀨 委 員 A者は、飼育する、育てるという部分が大きいのが、観察する生き物への配慮、例えば石を動かしたら元に戻しておこうなど、生命尊重や環境保全の心情を育てる配慮があると思った。それから、冒頭に8つのステップが示してあり、問題解決的な学習が進められるように構成されていると感じた。

B者は、「資料」や「科学のまど」というコーナーがあり、こちらではSDGsの関連を示して、持続可能な社会の担い手になるような態度を養おうとしているのを感じた。また、巻頭と巻末に「なぜ」と注目させる仕掛けがしてあった。これが、二次元コードと組み合わせることで、より効果的に学びが深まると感じた。

C者は、「見つけよう」「調べよう」「伝えよう」という学習活動を通して、問題解決の能力が身に付くと感じた。ここは非常にシンプルな三段階であると思った。それから、読む、書く、考える、話し合うなどの活動から、言語能力の育成にも力を入れているというのを感じることができた。

D者は、養蚕や製塩法、だしといった、我が国の伝統や文化の重要性を理科の中でも捉えさせ、理科との関連で示していることが良いと思った。教科書の判が大きく、情報量も多いと思った。写真や文字も非常に大きく表示されていて、児童の視覚にも訴えることができると感じた。

E者は、まとめノートが非常にわかりやすいと感じた。特に基礎的・基本的な知識の定着をねらいとした「たしかめよう」や発展的な学習内容を示す「活用しよう」は非常に効果的だと思った。

F者は、身近な事象などから問題を見つけて話し合う活動、予想に基づいて問題解

決の見通しを持って進める場面、それから話し合っって考察し合う場面など、観察カードの記述等が具体的に示してあって良いと感じた。また、動植物を扱うところでは、必要以上に動植物を採取しないという配慮を感じた。

梅田委員 どの発行者も理科に対して、どのようにしたら児童が興味を持つかということをととても大切に考えた教科書作りをしていると思った。写真も多く使われていたり、イラストも工夫されたりしていて、理科に興味を持ちやすい工夫がされていた。

A者については、ゲームの要素を取り入れながら「理科の世界」という表現を使って、3年から5、6年までを通して表していて、児童が理科の世界に対して興味を持ちどうチャレンジしていくかという形式で、教科書全体が展開されているところは、とても特長的であると感じた。

B者については、生活科からの移行をととても意識しており、特に3年生の最初は丁寧な始まりが用意されていると思う。疑問を持つところからスタートして、6年生になると、自分のこととして考えようというところに発展していくのは、理科の世界での学びをどう進めていくかがとても意識されていると思った。学び方や学習の進め方、ノートの取り方の説明が丁寧にされていた。また、課題もわかりやすく示されており、写真などもうまく使われていた。

C者については、問題探しというところをととても大切にされていて、どの学年でもまず問題意識を持つところから構成されているところに特長があると感じた。学び方に焦点を当てて、全学年展開されているところが工夫されていると感じた。

D者については、生活科からの移行がスムーズにいくように工夫されていた。また、どの学年も「レッツトライ！」というところで課題をつかむように工夫されているが、その「レッツトライ！」のページが、どの学年も非常に大きな写真が使われていて、課題をつかみやすく工夫されていると思う。この発行者は、目次ではなく、学ぶこととして、学年の全体の学ぶ内容の構成が示されているところも特長的だと感じた。学ぶ内容もわかりやすく示されており、巻末の「理科の調べ方を身につけよう」という部分では、ノートのまとめ方だけではなく、デジタルノートの作り方であったり、実験の進め方ということのような、細かく発展的な内容も含めて示されていた。

E者については、理科の楽しみ方という示され方が入り口にあり、ICT活用にもページを割いているところも特長的だと感じた。目次の中に「季節ごよみ」というものがあり、季節と連動した単元構成がどう進むのかということが分かるように示されていた。学びの道筋が分かりやすく、問いを持って予想し、計画して観察してまとめるというような流れが、どの学年も一貫して作られていた。「くらしとリンク」のコーナーでは、様々な学習内容をさらに発展させてプログラミングや生活につなげるなど、気候を見ることにつなげていくというようなページがあり、児童が理科をさらに活用するという部分が意識されていると思った。また、まとめノートのページは手書き風で、児童にとっても参考にしやすいノートが示されていたと思う。

F者については、3年の始めの単元「太陽とかげを調べよう」で、影踏み遊びを最初に取り上げており、児童が実際に遊ぶという活動を通して得た気付きから学んでいくという展開は特長であり、児童にとっても大変取り組みやすいと感じた。1年間の学習の内容と学習の進め方が分かりやすく示されていて、観察や実験の仕方の説明もとても丁寧で良いと感じた。

教育長 皆さんから、それぞれの発行者についてのご意見をいただいた。

理科は6者なので、まず3者に絞っていきたいと思う。皆さんから、ご自身が推薦される3者について意見をいただきたい。

川 又 委 員 B者、D者、E者。

後 藤 委 員 B者、C者、D者。

山 田 委 員 C者、D者、E者。

庄 司 委 員 C者、D者、E者。

花 淵 委 員 A者、D者、E者。

梅 田 委 員 C者、D者、E者。

教 育 長 皆さんの話より、上位3者に該当するのが、C者、D者、E者の3者になる。これ
でよろしいか。

(異議なし)

教 育 長 ここから改めて皆さんからご意見などをいただき、最終的に1者に絞っていき
たいと思う。先ほど皆さんからそれぞれ意見もあったが、その内容なども踏まえて、質問
やご意見をまたお願いしたい。

花 淵 委 員 3者とも特長があるが、その中で、特にD者の「レッツトライ！」というところが、
児童の実際の学校や生活場面から問題、課題に高めていき、実際どんなことを学習し
ていくのが非常に分かりやすい。この「レッツトライ！」からの学習の流れという
のは大変良い。この「レッツトライ！」というところから、理科の学習に高めていく
というところ、着眼点なども育つということもあって、私はD者が良いと感じた。

川 又 委 員 私は、3者の中でD者の教科書が一番良いと思っている。D者の教科書は、紙面作
りが非常にすっきりとしていて、イラストや写真、説明の図がわかりやすくなるよう
な紙面作りになっている。特に人物や写真が大きく掲載されていて、わかりやすいと
いうことがある。また、いろいろな気候と災害、地理と災害との関係も十分取り上げ
られていると思った。

それから、巻末では理科とプログラミングの関係で、数字の計算ではなくて、様々
な実験手順や作業手順という意味でプログラミングの紹介がされていて、これはとて
も良いことであるので、D者を推薦する。

山 田 委 員 私もD者が良いと思う。やはり、プログラミング、スマート農業、防災など、今の
時流に合った内容が載っているし、先ほどもあった単元の最初の「レッツトライ！」
のところからの入り方がわかりやすいというところで、D者が良いと思う。

後 藤 委 員 私もD者が良いと思う。最初の説明でも申し上げたが、「ふりかえろう」でのノート
の書き方の提案や、「こんなところにも！理科の世界たんけん部」のような、身近な課
題に理科の視点を生かしている読み物は、児童はきっと好きだと思う。

梅 田 委 員 私もD者が良いと思う。「レッツトライ！」で、大きくページを割いているので、同
じ単元でも他の2者と比べて、取り扱っているページ数は少ないが、その分、分かり
やすく簡潔な表現に気を付けられていると感じた。

また、4年生の単元で、閉じ込めた空気と水という単元と、物の体積と温度という
単元があるが、ここは、D者はそのままつながっている。閉じ込めた水や空気がどう
なるかということと、今度は試験管の中で温めた空気がどうなるかということがその
ままつながっており、非常に流れがスムーズだと思った。他の2者は、間に別な単元
が入ってくるので、何をどう扱うかは教え方にもよるかと思うが、1年間を通してス
ムーズな流れが意識されていると思った。

庄 司 委 員 私もD者が良いと思う。「レッツトライ！」で、教科書で学ぶところから、問題をつかんで調べてまとめるという流れがしっかりしているので、1つの單元ごとに確実に力になっていくと感じた。あとは、子供たちの表情がとても生き生きとした写真が多いと感じた。

教 育 長 皆様から、D者という話があったかと思う。D者を採択候補としてよろしいか。
(異議なし)

教 育 長 皆様が、触れられていた「レッツトライ！」での導入部分であったり、振り返りの部分のノートの取り方、それからプログラミングであったり、そういったところとのつながり、災害の扱い方などの話があったかと思う。そういったことも含めて、ただいま議論いただいた内容を採択理由として事務局で整理した上で、7月25日に最終的に決定したいと思うがよろしいか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、ここで一旦休憩を取りたいと思う。再開は午後3時30分とする。

(休憩 午後3時16分～午後3時30分)

【英語】

教 育 長 「英語」について協議を行う。事務局から、学習指導要領の目標等について説明をお願いします。

教 育 指 導 課 長 担当指導主事からご説明する。

指 導 主 事 小学校「英語」について説明する。

小学校外国語では、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを目標としている。

協議会において取り取りまとめた小学校「英語」の全発行者の特長は、別紙資料1、報告の別紙1の25ページ、26ページにお示ししている。

主な特長について、まずA者は、見開き1ページの各学習活動において、書くスペースが十分に確保されており、言語活動の充実につながる工夫がなされているということである。

次にB者は、大単元のまとめでは、既習事項を用いて児童同士が練習する時間が設定されており、主体的で対話的な学びが実現できるように工夫されているということである。

次に、C者は「CAN-DO チェック」を活用することで自己評価を行いながら、学びの自己調整を行うことができるように工夫されているということである。

次に、D者は、各学年の冒頭にある「Pre Unit」で、前学年までに学習したことを振り返り、明示された目標とゴールを確認しながら学べるように工夫されているということである。

次に、E者は、巻末に「Picture Dictionary」が設定されており、教科書1冊に単語検索機能もまとめられているので、持ち運びがしやすいということである。

次に、F者は、各単元の学習の流れや内容が把握しやすいように統一されており、学習者や指導者にとって見通しを持って取り組める構成になっているということである。

- 教 育 長 ただいまの事務局の説明に対してご質問、ご意見等あれば、お願いします。
- 花 淵 委 員 ある教科書では、3、4年生の外国語教育からの継続性の話が書かれていたが、3、4年生の外国語教育の状況と、それとの継続性等に関して、どのような考え方になっているのかご説明をお願いします。
- 指 導 主 事 3、4年生では、外国語活動の時間が週に1回ある。教科書ではなく、文部科学省作成の外国語活動の教材「Let's Try!」を使用している。3、4年生の外国語活動では、聞くこと、話すこと（やり取り）、話すこと（発表）の3領域を学習し、体験的に理解を深め、基本的な表現に慣れ親しませるという学習を行う。それに対して、5、6年生の外国語科では、それに段階的に読むことと書くことを加え、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける学習というつながりになっている。
- 後 藤 委 員 5、6年生の外国語科で、どの程度の習熟度を目標としているのか教えていただきたい。
- 指 導 主 事 学習指導要領の解説では、4技能5領域の目標で次のように示されている。聞くことに関しては、ゆっくり、はっきり話された自分のこと、身近なこと、簡単なことを聞き取ったり、概要を捉えることができるようにする。読むことに関しては、活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音すること、また音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにするとされている。話すことに関しては、話すこと（やり取り）と話すこと（発表）の2領域に分かれている。やり取りの領域では、自分や相手、日常的なことについて伝え合うことができるようにする。また、発表の領域では、自分のことや身近なことについて、整理しながら話すことができるようにするとなっている。書くことに関しては、大文字、小文字を活字体で書くこと、基本的な表現を書き写すこと、自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に書くことができるようにするとされている。
- 花 淵 委 員 この5、6年生、3、4年生もそうだが、外国語の教科書を使って指導するのはどなたか。
- 指 導 主 事 各学校の状況にもよるが、主に担任の先生方が行う学校と、それから専科教員と言われ、外国語指導を専科として行う教員がいる学校がある。そこに、ALTの先生が週に1回派遣され、ティーム・ティーチングで行うという場合もある。
- 花 淵 委 員 学校によって違うということか。
- 教育指導課長 学校によって異なる。小学校については、英語、いわゆる外国語の免許を持っていない教員も当然ながら含まれる。したがって、それぞれ研修等を行いながら、担任の先生が従来の小学校で授業を行っているのと同じように、英語の授業を、教科書などを使いながら行っている。専科教員というお話もあったが、専科教員も、英語の免許を所持して専科教員として授業している場合もあるし、校内で英語の授業を専門的にという意味で、免許は所持していないが、英語の授業を中心に校内で授業を行っている先生もいるということになる。
- 教 育 長 その他ご質問等はいかがか。
(質疑なし)
- 教 育 長 それでは、皆様から、発行者ごとの特長について、ご意見をいただきたい。
- 後 藤 委 員 A者は、アルファベットの書き方を丁寧に指導しており、発達の段階への配慮が見られた。導入部として入りやすいと思う。また、学習の内容で単語の始めの音と終わりの音に注目させる学習指導を取り入れており、英語学習、単語習得に有効だと思っ

た。「My Picture Dictionary」というものが付いているが、この「My Picture Dictionary」の47ページにあるアルファベットを覚えるための「Letter Images」だが、ただアルファベットのイラストを載せるのではなく、そのアルファベットの形、まさに「Letter Images」に沿った形のを置いているのは、初めてアルファベットを見た児童が、文字の形を覚える時にとっても有効なイラストだと思う。ここはよく工夫されてると思った。

B者は、紹介しよう、伝え合おうということで、言語活動を充実させられる教科書だと思った。単語帳として、「My Dictionary」が付いていて、こちらの内容が大変充実しており、中学校の導入部でも困らない程度の内容である。

C者は、アルファベットの書き方を丁寧に指導しており、初めてアルファベットを書く児童でも無理なく覚えやすいと思った。「Word Book」は5年生、6年生で分かれていて、9割方は同じ内容で若干の追加がなされているという形式であった。

D者は、「コミュニケーションに大切なこと」から始まり、会話でコミュニケーションを取れるような配慮のある教科書だと思った。巻末の付録で「会話を楽しむフレーズ集」を付けており、会話を多くさせようという配慮を感じた。また、各国の写真やイラストも多くあり、児童が興味を持って無理なく英語学習ができる内容だと思った。

E者は、自己紹介カードを発展させた形の「All About Me」という形式のものがあって、そこに自分のことを書き込んだり、紹介したりという自己紹介カードが大変充実している。デザインもとてもよくて、学習指導要領の目的とするところの自分についてのものというところであれば、こういった形のもので、児童の興味・関心を引きながら学習を進めるというのは、自主的な学習ができると思う。児童はこういった形がとても好きだと思う。また、「Picture Dictionary」が切り離して使えるところは、英語の学習としては大変便利で配置への配慮を感じた。

F者は、導入部でヒアリングの活動が多くあり、英語に大切な耳を育てようという工夫が見られた。英語学習においてヒアリングが重要だと考えるので、導入時にこういった形の学習を入れ、発展的に耳を育てることはとても良いと思う。

山田委員 どの教科書もそうだが、普段の会話や、自己紹介から入って、そこから英語を用いて地域、日本、世界を知る、紹介するという流れになっていて、順を追って視野が広がり、それぞれを英語で説明できるように学習する内容になっている。

A者は、友達との対話場面が多く、聞き取りのクイズも毎回出てきて、楽しく自分の意見を英語で言うことを重視している。「Starting Out」のところで、場面の全体像を見て、「Let's Listen」で聞いて、「Let's Try」で自分たちで対話するということを繰り返しながら、友達とカードを渡し合って会話をするなど、順序立てて学んで、繰り返して会話をしていくところに力が入れていると思った。「My Picture Dictionary」に単語や、on、underのような位置を表す単語やフレーズがまとめてあって分かりやすいと思った。

B者は、各ユニットの中で、「HOP STEP JUMP」の順で、英語で話す内容を増やしていくという構成になっている。コミュニケーションを重視しており、発表の機会が多く、英語での表現力の育成に大変良いと思った。また、会話を聞いて、質問を聞いて、自分でも話して、他の人とも話してというのを繰り返し、その中で英語を聞いて話すということで、自然に説明ができるようになると思った。デジタルコンテンツにつながる二次元コードが豊富に配置されていると思う。

C者は、「Word Book」に様々な単語がイラストと一緒にまとめてある。それから、「Around the World」に世界や地域の情報を伝えるコーナーがあるのが良いと思う。

各単元の冒頭が見開きのイラストで、この単元を学ぶ全体像を見て、その後自己紹介や、相手の話を聞くというような活動を繰り返して、最後にその単元の目標の文が言えるようになるという流れになっているのが分かりやすいと思った。

D者は、「とびら」のところでそれぞれの場面のイラストを見せて、その章で学ぶ表現を最初に聞いて、その後にステップ1、2、3と順を追ってステップアップしていくという流れがよいと思う。それから、豊富に二次元コードが配置されており、また、onやunderなど、位置を表す言葉のイメージを歌で示すなど、感覚で覚えることができる教材になっていると思う。特に主語や述語という言葉を使わずに、イメージで、主語、動詞、目的語というのを、分かりやすい構文で自然に理解できる形で書いてあるのが特長であると思った。それから、挿し絵もきれいで分かりやすく、デジタルコンテンツにつながる二次元コードも豊富に設定されている。

E者は、こちらも「Hop! Step Jump!」の順に発展させていき、聞く、話す、書く、読む活動が段階的に進められるようになっている。「Sounds and Letters」にいろいろなアルファベットに発音、単語の例を音声と音楽で分かりやすく示しているのが特長だと思う。

F者は、「Sounds and Letters」において、英語の発音やスペル、音について感じるコーナーがあり、基礎的・基本的な内容を確実に定着させることができるようになっていると思った。

庄 司 委 員 A者は、5年生では「日本でつながるわたしたち」、6年生だと「世界とつながるわたしたち」というテーマで、日本と世界とのつながりが自然と考えられるような工夫がされていると感じた。見開きで学習内容が大変分かりやすく示され、また書くスペースも十分に取られているところや、言語活動にもつながる工夫が感じられて良いと思う。また、別冊には、自分の伝えたい言葉を探すときや、4線上に文字を正しく書き写すなど、興味を持って取り組めるような工夫を感じた。

B者は、1年間の学びの中で、1単元ごとに「HOP STEP JUMP」の3段階構成にされていて、学習内容が大変分かりやすい。また、イメージを持って学習に自主的に取り組める工夫があると思った。また、別冊も大変見やすくできていると思う。

C者は、1年間の学習で基礎的なことから発展的な内容へと、とてもバランスよくできていると感じた。各単元の終わりでは「CAN-DO チェック」で自分を評価し、次の学びに向けての課題を見付けられるような工夫があり良いと思う。

D者は、各単元に全体の目当て、またステップ1、2、3とそれぞれに目当てが示されていて、見通しを持って学習に取り組める工夫があると思った。また、各ページ、書き込みをするところが多く設けられているので、書く活動の充実につながる工夫がありとても良いと思う。

E者は、各単元、「Hop! Step Jump!」で構成されていて、聞く、話す、書く、読むといった活動がスムーズに積み重ねていける工夫があると思う。単語や文の書き方コーナーでは、中学校への学びへのつながりが配慮されていると感じた。

F者は、各単元に学習のめあてが明確に示されていて、見通しを持ち、学習に取り組むことができると感じた。また、言語活動では、1対1のペア活動だけではなく、クラス全体での取組などもあり、幅広い活動ができるように工夫があって、こちらも

大変良いと思った。

花 淵 委 員 A者は、聞く、読む、話す、やり取りと発表、書くという4技能5領域をスモールステップで進めているという工夫がしてあった。とても学びやすい配列だと感じた。それから、「My Picture Dictionary」では、自分だけの絵辞書を作ることができて、自ら学ぶ力を養うことにつながると感じた。

B者は、目標「HOP」、見通し「STEP」、振り返りの「JUMP」という流れがスムーズに進められるように教科書が構成されていると感じた。それから、個人差が大きくなる、書くことと音声とをスムーズに結び付けるために、「Let's Listen & Read」を設定して、児童の理解について個人差が大きくなるような工夫がされていた。

C者は、各単元の冒頭に、単元のゴール、目標と活動目標が表示してあり、学習の見通しが持ちやすいと思った。記録を残す評価のためにも、教科書に直接書き込める工夫がしてあった。「Word Book」は、本格的に英語を学び始めた児童にとっては学習の手掛かりになるものとして、大変すばらしいと感じた。

D者は、言語材料に慣れ親しむためのインプットと、慣れ親しんだ言語材料を使ってアウトプットを繰り返し行うようになっており、わかった、できたということを実感できると感じた。それから、二次元コードを多く活用しており、音声、耳と目と両方使って、個に応じた学習が進められるのではないかと感じた。

E者は、学年の目標が設定してあり、次の学年の目標とともに示してあるので、見通しを持って進められるのではないかと感じた。既習事項を生かして豊かな言語活動を育むための工夫がされている。特に「Small Talk」や「Plus One」、「Phrase Hunt」というところがすばらしいと思った。

F者は、単元の導入で映像を見る活動があって、無理なくスムーズに学習に取り組むことができると感じた。それから、学校生活に合ったテーマや活動を多く取り入れており、楽しく学んで仲間づくりであったり、学級づくりにも発展させられるのではないかと感じた。

梅 田 委 員 どの発行者も、英語というものに興味を持てるように工夫されていると思ったが、全体としてワークブック的に使うとか、書き込むことが割と多い教科書と、比較的書き込む部分が少なく、教科書を見て学ぶとか、見て活動するというところに重きを置いている教科書と、二種類ある印象を持った。

A者は、冒頭に必ず5年生も6年生もアルファベットがあって、その後見開きで目次と学習の進め方が示されるつくりになっており、アルファベットをまず確認しながら、学習に入っていくことができるように工夫されていた。各単元は、二次元コードから、まず聞いて、そこから取り組むというような形で構成されていて、分かりやすいと思う。また、動画へアクセスする二次元コードからも多く配置され、動画を見ながら授業を進めていくことができるように工夫されていた。「My Picture Dictionary」は単語が大変多く示されていて、家庭での学習や発展的な学習にも使えると思った。

B者は、冒頭には、世界の挨拶とか世界の街角という見開き写真のページがあって、外国への興味が湧くように、英語を使ってみようと思うように工夫がされていた。教科書の使い方が「HOP STEP JUMP」で表現、最後に表現するというところまで示されていて、思い描く、最初にこんなことではないかと予測して取り組むところから、表現するというところまで持っていけるような工夫があった。また、途中で「文字で遊ぼう」や「みんなで歌おう」というページもあり、慣れない英語に親しみやすくする

工夫があった。「英語でこんなことができた！」というページが巻末にあって、振り返りができるようにされてあった。

C者は、冒頭に見開きで、外国語学習のテーマとともに、海外の人の写真があって、英語で伝え合う、受け止め合うことの大切さが示されていた。また、3、4年生の学習を丁寧に振り返った上で、5年生の学習が展開されていると感じた。この発行者も「Word Book」が別冊であり、家庭学習等でも使えると感じた。「CAN-DO チェック」があって、振り返りで確かめもできるように工夫されていた。大切な吹き出しは全部色が付けてあり、見やすく、ここは大切な会話文というのが分かるように工夫されていると思った。

D者は、5、6年生共通して、「コミュニケーションに大切なこと」が示されていて、コミュニケーション活動を重視していると感じた。発表ややり取りの項目が示されていて、児童が英語を学んでいく上で重要なことだと感じた。また、各学年の学習の準備として、「Pre」というユニットがあって、必ず準備の「Pre」をやってから最初の単元に入っていきことができるように工夫されている。基本的な内容から丁寧に学ぶことができると感じた。また、聞くという部分には日本語もあって、分かりやすく示されていたと感じる。児童の日常生活の事項も多く入っていて、興味関心を持って取り組めると思う。

E者は、冒頭、見開きで多様な人々が登場して、英語でどんなことをこれから学習するのかということが示されていた。友達になる、世界とつながるなどというテーマが示されていたし、「さあ、行こう！」「やってみよう」というのは、児童をこれから学んでみようという気持ちにさせるテーマだと感じた。5、6年生で「できるようになること」というページがあって、自分なりに振り返りができるということと、冒頭に「いつも『たいせつ』」というページもあり、英語をどのように学んでいくかということの学び方が分かりやすく示されていた。「Let's Watch」や「Let's Listen」というものがバランスよく配置されていて、良いと感じた。また、途中キーボードの配置があって、パソコンの学習あるいはタブレットの学習にも結びつくような工夫があった。

F者は、冒頭に見開きで、多様な人々の写真とともに1年間の流れが示されている。この教科書でどう学ぶかということが目次から把握できるように工夫されていると思う。見て、聞いて、書き込んで、アクティビティへという一連の流れが繰り返されていて、学びがきちんと定着するように工夫されていると感じた。また、5年生の教科書では日本各地の紹介がとじ込みのような形で示されていて、それを題材に、それぞれの地域の子供たちが自分の県や、自分の都市のことを話すことに使えると感じた。また、「Sounds and Letters」では、聞いて書く力を高める工夫されていた。

川 又 委 員 A者は、イラストや図面が大きく、分かりやすくなっている。また、大きい書き込みスペースが多数あって、学習に有効だと思った。それから、「My Picture Dictionary」という別冊があって、これは使いやすい辞書的な構成になっており、文字がアルファベットの4線の中にきちんと記入されていて、分かりやすく使いやすい別冊だと思う。また、とじ込み付録が多様な形式になっていて、児童の興味・関心を引くように作られている。また、全体的なこととして、異文化の理解、日本文化の世界の中での位置付けというような、地球規模での文化理解を促すような構成になっている。

B者は、簡単な文字や簡単な単語から教科書が始まるような構成になっている。書

き込みスペースの幅も広くて、例文の文字が大きく、見やすくなって、児童の学習の労力を減らすような工夫がされている。それから、「My Dictionary」という別冊があって、ここではアルファベット、数、月日などの簡単なものから複雑なものへと適切な配列となるよう配慮されている。B者の特長として「Try プログラミング」というページがあり、英語とプログラミングの関係が説明されている。実際的にプログラミングの世界の言語というのは、ほとんど英語だけなので、この「Try プログラミング」で、英語とプログラミングの関係を扱うということは、大きな特長で有効な内容だと思う。

C者は、まず3、4年生での外国語教育からの継続性を重視した教科書の構成になっている。3、4年生で学んだことと、これから何を発展的に学んでいくかということが記述されている。この教科書では、英文のフォントが大きく見やすい構成となっている。5年生、6年生用のそれぞれに「Word Book」があって、基礎的な単語を適切に分類して配置している。挨拶、動物、季節、食べ物等の分かりやすい分類で基礎的な単語が配置されている。

D者は、5、6年生の後半の部分に「Word List」というものがあるが、分類が適切で分かりやすい表現になっていて充実している。この教科書でも書き込み欄が広く大きく多数設けられていて、児童が書き込みながら学習するのに有効な紙面になっている。フォントや図版、イラストがとても見やすいものになっていて、イラストの配置等も見やすく、分かりやすい配置になっている。

E者は、いろいろな会話の場面があるが、どんな場面においても登場人物や文化的な多様性に配慮がされている。それから、お互いにきちんと内容を確認し合いながら意見を述べ合うような、そういう対話的な英語の学び方を促していると思った。巻末に「Picture Dictionary」があって、ここでは単語や表示の数が適度な量であると思う。適度な量というのは、それほど多くなく、必要十分な量の単語や表現が盛り込まれているということである。

F者は、巻末に「My Word Bank」という辞書的な部分があるが、これは言葉の分類、それから取り上げた言葉の量、単語、イラスト等が適切なものになっていて、量的な負担が児童にかからないように、非常に適切な分類、量、単語、イラストが選ばれていると思う。それから、とじ込みのパノラマのページで、日本全国、それから全世界の地理や文物の紹介がなされていて、これは児童の興味を引くものであると思う。また、巻末の切り離しページのところでは、主題、テーマごとに1枚、裏表、表裏の紙面になっていて、書き込み欄がとても広く充実していると思った。

教 育 長 皆様から、それぞれの発行者の特長などについてお話をいただいた。

英語については6者なので、ここから3者に絞りたいと思う。ご自身が推薦する3者を挙げていただきたい。

後 藤 委 員 A者、E者、F者。

山 田 委 員 A者、D者、E者。

庄 司 委 員 A者、C者、F者。

花 淵 委 員 A者、C者、E者。

梅 田 委 員 A者、B者、E者。

川 又 委 員 A者、C者、E者。

教 育 長 今、皆様から伺った結果によると、上位の3者は、A者、C者、E者になる。

ここからはこの3者に絞って議論を深めていきたいと思う。先ほどもいろいろ各者の
の特長などお話しいただいたが、まずこの3者について確認したいことや質問など、
ご意見いただきたい。その後、どの発行者がよいのかということで1者に絞り込んで
いきたい。

花 淵 委 員 事務局に質問したいが、小学校の外国語の評価はどのようになっているのか。

指 導 主 事 3、4年生の外国語活動では、身に付いた力を文章表現で伝え、小学校高学年の外
国語の評定においては、中学校や高等学校と同じような形で、その特性及び発達の段
階を踏まえながら、数値による評価を行うことが求められている。

花 淵 委 員 評定を出すということによろしいか。

指 導 主 事 そうである。

教 育 長 評定を出すというのはどういうことなのか、少しかみ砕いて説明いただきたい。

指 導 主 事 5、6年生において評定を出すということになるが、知識及び技能、思考力、判断
力、表現力等、それから主体的に学習に取り組む態度の観点別評価を行って、小学校
であると1、2、3で評定を出す形になっている。

後 藤 委 員 そうすると、成績表をいただいて、国語、算数のように外国語という欄があって、
そこに成績がつくということか。

指 導 主 事 そうである。

教 育 長 3、4年生の外国語活動では評定は出さないということによいか。

指 導 主 事 外国語活動は、身に付いた力を文章表現で伝えるということになっている。

教 育 長 通知表などには、評定はついてこないということか。

指 導 主 事 数値では出さないこととなっている。

花 淵 委 員 これまでのいろいろな質問事項に関連してだが、最近の英語教育では、会話の能力
というのが重視される方向になってきていると思うが、実際に小学校でも評定を出す
ときに、会話能力や、先生からいろいろと質問されたことへの対応など、そういうと
ころも評価されるということなのか。あくまでも例えば他の科目のように、どちらか
というと紙の上で書いたもので評価されるのか、そのあたりはどうか。

指 導 主 事 学校訪問等を踏まえると、アクティビティ中心の授業を行って、ペーパーテストを
実施している学校は、それほど多くないと聞いている。話す、聞くを重視した学習を
行っているため、読んだり書いたりするテストは実施が難しく、たとえ実施したとし
ても選択式の問題としているところが大半なので、多くの学校では授業の様子や提出
物を参考に、またパフォーマンステストなどを行いながら評価を出しているところも
あると聞いている。

山 田 委 員 教科書の中に、「Let's Listen」などが多く出てくるが、これはその授業の中で先
生が何かを流すということなのか。どういう授業のやり方なのか教えていただきたい。

指 導 主 事 指導者が音声を読んだり、またはデジタル教科書等を使って、個別にもう1回聞き
直したりというような形で行っていた。

山 田 委 員 評価というのは、聞き取りのところもあるということによいか。先ほどまでの説
明を聞いていて、聞き取りや、書いたり、話したりというのを、どのように評価され
ているのか、よく分からないため、もう一度具体的に教えていただきたい。

指 導 主 事 「聞くこと」に関しては、リスニングテストのような形で行ったり、あとは活動の
中で先生がつくったものを通して、リスニングを通して、書き出したもので成果を見
るといった形になると思う。

教 育 長 我々は小学校の時に英語の授業がなかったので、イメージがしにくいと思うが、具体的にこのような授業や評価をしているなどの例があれば伺いたい。

教育指導課長 評価については、各先生方が自分の学級の児童の様子を見て評価をするということになる。中学校と異なり、先ほどペーパーテストという話があったが、形式的なものというよりは、児童の活動をどのように先生方が見取っているかというところが一つポイントになると思う。評価をするに当たっては、評価基準が当然必要になるので、英語の授業において、どのくらいのことができるようになったか、これがいわゆる「CAN-DO リスト」など、そういったものを各学校で活用しながら、それぞれの児童がどのレベルにあるかということ、活動あるいは学習内容を見ながら評価していくことになる。

山 田 委 員 今回この教科書を拝見して、大変高度だと思った。5年生に入った時点で、既にこういうことをやっているのかと思ったが、文法から入るのではなく、取りあえず耳で慣れる、取りあえず言葉に出す、そういう方針ということではよろしいか。実際、例えば主語、述語のようなことがほとんど出てこないが、それは形で覚えて、中学校になったところで、小学校での学習内容とそこをリンクさせるという考え方でよろしいか。

指 導 主 事 学習指導要領の解説においては、文構造などを指導することなどはせずに、児童に示された場面で活用する表現の音声を意識させ、コミュニケーションを通して、表現の意味や働きを体験的に理解させていく指導が大切であると示されている。

教 育 長 それでは、どの発行者がよいかという辺りを含めた発言をお願いしたい。

後 藤 委 員 私は、A者が良いと思う。先ほどの話で、3、4年生が会話を重視して、ALTの先生と楽しく会話する学習をしてきたのであれば、最初にアルファベットを書くところから入らないと、子供たちには難しいのではないかと思う。そういった意味で、アルファベットを書くということをしつかり教えるA者の教科書が良いと思う。

花 淵 委 員 先ほど私が2点聞いたのはそこだったのだが、小学校の英語の場合には、必ずしも英語を専門とする先生ではない先生が指導している場合もあるということ、評価だけではなくて評定も出さなくてはならないということ、そしてペーパーテストは行わないとなった場合に、教科書にその評価の跡が残る形にしておいた方が、当然先生方はそれを見て評価の対象にできると感じた。そうすると、E者の場合は少し書き込みが少ないと感じる。A者とC者、どちらも書き込みが多いのだが、学習の流れからすると、やはりA者の方が書き込みをするところが多く、先生方がこれを集めて評価に使うことを考えると、A者の方が良いと思う。また、5、6年生の「My Picture Dictionary」も評価の対象として使えると考えたので、後藤委員と同じようにA者が良いのではないかと考える。

川 又 委 員 私もA者を推薦する。会話や対話重視の英語教育ということではあるが、やはりきちんと書いて、自分の記録を残していきながら学習するということが必要であり、重要だと考える。A者の紙面はすっきりとして、書き込みのスペースが大きく、多くあるので、自分で学習する上でいろいろな紙面作りができるので、A者が良いと思う。

梅 田 委 員 C者もどちらかというとなんか読んだり、話したりする部分が多いと思うが、書き込むスペースが多いのはA者である。先ほど説明があったように、まず聞いてみて、話してみ、そしてやり取りをしてみるということ、私はE者の作りもなかなか良いと思っていた。最初に絵を見ながら、あるいは多分その中の動画を見たり、対話を聞いたりしながら、どこで誰がどんなことを話しているかということに興味を持

って取り組んでいくという流れが中心になっているので、会話や対話という言葉も出てきたが、そういった言語活動を中心にして学んでいくことを考えると、私はE者が良いと思った。

教 育 長 他の方々はいかがか。今のところ、A者という発言とE者という発言もあった。

山 田 委 員 私もA者とE者で悩んだが、やはり本自体が大きく、見やすく、書き込みできるということで、A者が良いと思う。ただ、情報量的にはE者のほうが多いのだが、全ての児童が、まだなじみのない英語に入っていって、それなりに聞き、書き、読みができるようになるということを考えたときに、A者の方が児童に易しいという気がしたのでA者が良いと思う。

庄 司 委 員 A者が良いと思った。内容は、やはり見開きの2ページで1つずつ完結していくというところが大変見やすいと思う。書くスペースが十分に取られているというところで、先ほど後藤委員からもあったが、アルファベットを丁寧に1つずつ、基本をきちんとそこで覚えられるところ、それが中学校での学習につながっていく基本だと思うので、A者が良いと思う。

教 育 長 皆様の発言をいただいた。A者とE者で迷われたという発言もあって、その上でA者を挙げる方が多かったのですが、ここではA者が良いのではないかと思うのだが、いかがか。皆様のお話の中では、3、4年生での外国語活動からの接続というようなことも踏まえてという話や、言語活動が中心とはいえ、書き込みのスペースはあったほうが良いという話や、アルファベットからの導入が入りやすいという話だと思う。それでは、そういった点も含めて、採択理由について事務局で整理した上で、7月25日に最終的に決定したいと思うがよろしいか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、「英語」を終了する。

【国語】 ここからは、前回からの継続審議となった「国語」についての再審議を行う。事務局から改めて説明はあるか。

教育指導課長 特に説明等はない。

教 育 長 それでは、審議に入りたいと思うが、まず前回の確認をしたいと思う。前回、7月14日の協議では、全部で三つの発行者があったが、委員の皆様からご意見をいただいて、協議の結果、B者とC者の2者に絞られたところである。引き続き議論を重ねてきたが、採択候補の決定には至らず、本日改めてこの2者について審議するという事になっている。

前回の審議の際には、学習の導入時のねらいの提示や、終末時の振り返りの内容、それから同一の教材が取り上げられている場合があるが、その取り上げられ方、伝統的な言語文化に関しての言葉のコーナーなど、それぞれの特長が議論されたかと思う。

本日の再審議に当たっては、教科書を用いて学習を積み重ねていく児童と、指導する教員にとって大切な観点である仙台市の採択の観点、学習と指導に関すること(8)から(11)の内容を踏まえて、他教科との関連、主体的・対話的で深い学びなどにも着目しながら、本市の小学生が使用するのに、よりふさわしい教科書を1者に絞り込んでいきたいと思う。

それでは、改めてご覧いただいて、ご意見等いただければと思う。

後 藤 委 員 この二つの教科書を比べた時に、どちらも大変良い教科書だと思うが、まず物語文

へのアプローチの仕方が違う。B者は導入部分で丁寧に説明してから本文に入る。C者に関しては、むしろ導入部分では情報を少なめに出し、ポイントを絞ったアプローチをしてから本文に入って、振り返りでしっかり学ばせるという、そのアプローチの仕方が違うと思った。もう1点違ったのが、題材をどの学年に充てるかが、それぞれの教科書で違うと感じて、例えば「スイミー」はどちらの発行者も取り上げているが、B者だと1年の下巻、C者だと2年の上巻で取り上げている。

どちらの学年がその題材を取り上げるのにふさわしいかというところであるが、文法的なところで、例えば慣用句についてであるが、慣用句がB者だと3年の教科書の上巻で出てくる。3年の上巻の、B者では116ページに慣用句の説明がある。C者の教科書だと、慣用句が出てくるのは4年生の下巻、60ページである。当然ながら3年生の上巻で取り上げるのと、4年生の下巻で取り上げるのでは、教えている内容が違う。3年生の方が易しくて、4年生はより深い内容となっている。なぜ慣用句を見たかかというと、私の子供が6年生で外部のテストを受けたときに、国語の問題でももちろんいろいろな習熟の度合いがあるので、得手、不得手があるから全部できるわけではないのだが、敬語、文法、文章の読み取りというのは、できないまでも知識として頭に入っていたが、慣用句の知識だけ子供から抜けていた。慣用句は小学校で学習しないのかと思い、慌てて慣用句と四字熟語に関しては、自分で教材を買ってきて、自分の子供に教えた経験があった。

それで、今これを見て納得したのだが、やはり文章を作るときに必要な知識の一つではあると思うが、私は3年生の上巻で軽く教えるのではなく、4年生の下巻でしっかり教えた方が、記憶に残るのではないかと。同じように、「スイミー」という物語をしっかり読み込むのも、1年生の下巻ではなくて、2年生で行うべきなのではないかと。学年ごとの題材の配列が、私はB者よりもC者の方が、適切な時期を捉えているのではないかと思った。

また、C者に関しては、巻頭で、今まで学んだことや、これからどう学んでいくかということを変に丁寧に載せており、国語の学びを見渡す内容が充実していると思った。もちろんB者もそういったことを説明しているのだが、C者のほうが、今まで習ってきたことと、この教科書でそれをどう発展させていくかということが、より詳しく導入部分で説明されていると思った。だから、基礎的・基本的な学習内容の定着に関しては、C者が良いのではないかと思う。

さらに、C者の6年生の教科書で、学習活動の充実ということで、140ページから146ページの学習活動の着眼点も、時事にこだわるのではなくて、「みんなで楽しく過ごすために」ということについての討論を深めているというのは、着眼点としてとても良いことではないかと思った。どのような話し方をしたら、人を傷付けないかなど、大変良い着眼点だと思う。言語活動を充実させるための題材として良いと思う。

これは前回も話したことなのだが、B者の6年生の教科書108ページで取り上げているコンゴの難民キャンプの写真について、「世界は必ず変えられる」という内容のページである。このページに書いてあることは、何一つ問題ないのだが、この写真を見たときに、教室にいるアフリカ系の児童が、もしかしたら傷付くかもしれない。事実を知らせるといえるのは大切なことだと思うのだが、そのアプローチの仕方も、例えば社会科の教科書で人類全体の問題として飢えるアフリカというものを取り上げるのであれば、そのような写真を載せても何の問題もないと思う。ただ、この国語の教

科書で伝えたいことは、コンゴの難民キャンプが大変であるということではなくて、頑張ったら社会を変えられるということを伝えたいのだと思う。要するに、写真等を載せるときに、クラスの中にもしそういった児童がいたとして、その児童がその教科書の中の絵や写真に対して、他の友達に「これ、君みたいだね」と言われて、「そうだね、僕みたいだね」と言える写真であれば、何も問題ないと思う。しかし、「これ、君みたいだね」と言われたときに、「僕じゃない、僕は違うよ」という説明を加えなければいけないものに関しては配慮が必要だと思う。したがって、内容的な面からも、C者の教科書を推薦させていただく。

教 育 長 幾つかの点に触れていただきながらの発言であった。他の皆様はどうか。

梅 田 委 員 どちらの教科書も工夫されて作られているので、どちらがよくないとは言えないが、この前話題に出た説明文ということで考えてみると、例えばB者の3年の上巻の42ページには、読んで考えたことを伝え合おうという目標の下に、「自然のかくし絵」というものが取り上げられていて、言葉の力、ここで学ぶこととして段落の内容を捉えるということが挙げられている。

同じくC者でも、3年生の上巻で、53ページから、まとまりを捉えて読み感想を話そうということで、「こまを楽しむ」という説明文が取り上げられているが、この目標、この段落で何を学ぶのかというところが大変気になっていて、B者の場合は段落の内容を捉えるところで終わりなのである。もちろんその後、発展的な活動として考えたことや捉えたことを伝え合うということは、当然その裏にあると思う。だが、最後のまとめのところを見ても、やはりそこまでではない。その後のページを見ていくと、最後の振り返りのところも段落の内容を捉えながら読むことで、どのようなことを考えたかについて、自分がどう考えるかというところでとどまっている。

C者は、この単元だけではないのだが、考えたことやつかんだことを話し合うということが必ずもう一つの目標になっている。そこは、児童が自分で捉えたことを自分の中でとどまらせないで、お互いに伝え合うことで、相手はどんなふうにつかんだか、自分と他者の違いに気付いたり、あるいは考え方の違いや捉え方の違いに気付いたり、そこを認め合ったりというような活動に発展させることができ、先ほどの内容でいけば、豊かな言語活動が展開されるということにつながっていき、言語や、言葉の基礎・基本というものが十分身に付いたかどうかの確認や、さらに学ばなければいけないところの補充や、発展的な学習ということも、伝え合う中でできていく部分もあるのではないかと思う。

また、C者の説明文は、上下巻で一つだが、説明文の前に練習が付いていて、この「こま」で言えば、「文様」という文章が2ページ見開きで付いていて、説明文の捉え方を練習した上で、長い説明文を学ぶというような準備から入って、本文を捉えていくというような工夫がされているところも、仙台市の子供たちに私はいいいのではないかと思った。

結果的に国語で学んだことを、いかに実際の言語活動で使えるようになるか。英語にも共通すると思うが、そこは大変重要で、書くことにもつながっていくと思うので、捉えたことを自分で捉えただけでとどめないで、さらに伝え合う、話し合うという活動に発展する展開を意図しているC者を私は推薦したい。

花 淵 委 員 私は、前回も言ったが、B者は、言葉の力があって、学習の流れが示されて学習に入っていくという作りが、仙台市の採択の観点の「学習と指導に関すること」の観点

で見ると良いと思う。学習というのは児童がするものであり、指導は先生方がするということから踏まえると、この流れを見て最初に示されていたほうが、児童はここで何を学習するのかというのが、まず概観できて、それから学習に入っていくというのが全ての学習のパターンになっており、このパターンを身に付けていくと、他の単元でも、他の説明文や物語文を見ても、このように学習すればいいのだということが、これを繰り返し行うことによって、身に付いていくと思う。まずは、学習の見通しを持つということが、算数でも、理科でも、社会でも全部そうだが、今から学習することのゴールはどういうことなんだということを、児童も先生方も共有して学習に取り組んでいくということが重要ではないかと思う。先が見えないで、何を最終的に勉強するのかというのが見えないと、学習を進めていく中でも不安になってしまうということがある。まずは全体像を見せて、それから学習に入っていくということが大事なのではないかと私は考える。

庄 司 委 員 私もB者が良いと思う。理由としては、その単元に入るときに、「言葉の力」で、ここで何を学ぶのか、そこで見通しや、その学習の流れというのが、ここに丁寧に書いてあるのだが、国語は本当に全ての教科に関連しており、スタートだとは思いますが、やはり長い、短いがあっても、文字の嫌いな児童は本当に読むだけでも大変だと思う。しかし、そこで何かヒントが一つあると、気を付けて、そういうふうに1回まず読んだだけでも、何か一つ分かったら、児童は次に進むことが容易になる。C者とB者ではアプローチの部分が全く違うと思うのだが、児童は皆がすぐに理解できる児童ばかりではないので、やはり取り残されない、よく分からない児童であっても、スタートラインに何かヒントがあると楽しく取り組めると思う。

学年が上がれば上がっただけ、それだけ内容もちろ難しくなり、物語などを紹介している文も、非常にページが長くなる。やはり低学年のうちから、こういった同じやり方で基本をきちんと積み重ねていくと、必ず力が付いてくると思い、私はB者を推したいと思う。

山 田 委 員 両方もう一度いろいろ読み込んでみたのだが、やはりC者が良いと思っている。幾つか理由はあるが、例えば主体的な学習態度の形成という意味でいくと、巻頭の目次について、例えば6年生の最初の巻頭の目次が、とても見やすいということと、目次から学びを見渡そうというところで、話す、書く、言葉など、それぞれの分野でどういうことを学習するのかということが、切り分けられているということで、これから学んでいくことが、私はとても見やすいと思った。目次は全部順番がばらばらに入っているのだが、その後の学ぶところごとにまとめられているのは見やすいと思った。また、前回も話したが、我が国の自然や歴史は仙台市の採択の観点(2)になると思うのだが、文化を愛し守り伝えるという、その季節の用語の説明や、日本の芸能、文化、日本語自体の説明などがC者の方が詳しく出ている印象を受けた。読み物がいろいろ多く入っているという印象も受けた。

B者は、その仙台市の採択の観点(9)の他教科や総合的な学習の時間との関連というところで、自然や生物、現代社会の問題、例えばプラごみの話などの資料が多く入っているのは、大変良いと思うが、印象としてC者の方が、いろいろな分野の読み物が入っていて、そこにどう入っていくかという入り方や、切り口の違い、まとめ方の違いなどはあると思うが、私はいろいろな資料に触れられるというのも、国語では重要なのではないかと考えている。6年生までに、先ほどの慣用句などの言葉もそうだ

が、いろいろなものに触れておくと、将来的にどこかでそれが引き出しになって出てくることが多いような気がしている。他の教科、先ほどの英語では、情報量が多過ぎても学べないだろうというのはあるが、国語に関しては、例えばC者は詩の量も多く、いろいろな角度のいろいろな情報が多いほうが良いのではないかという気がして、C者にした。

教 育 長 それぞれのお話を伺っているが、C者の話もB者の話もあるという状況である。他に発言があれば、お願いしたい。

川 又 委 員 私はB者が良いと思っている。いろいろな国語の勉強に対してのアプローチの仕方、B者とC者で違うというところもあって、その点ではどちらということはないのだが、最終的に5年生、6年生までで、どのような国語を学習していくかということというのと、B者の方が、例えば小説や物語に加えて、説明文の内容が充実しているということと、現代社会との関わりに十分配慮して説明文を載せているということで、いろいろ考えさせる、疑問を生み出すような構成になっているというところを評価している。導入部分でいうと、1年生の上巻のところで見ると、導入が一番緩やかでなめらかなものはC者なのだが、最終的に5、6年生までで何を指すべきかというところという、B者のほうが良いのではないかと思った。

教 育 長 皆さんから一言ずついただいたところだが、加えてご質問などあればと思うがいかがか。

仙台市の採択の観点で、「学習と指導に関すること」ということで、今話したが、もう一つ、「配列に関すること」というのもあり、(6)「教科における基礎的・基本的な内容の確実な習得、定着を図るための学習や、発展的な学習が展開できるように配慮されていること」、(7)「教材の配列が、児童の生活や本市の実態に広く対応できること」というのも、採択の観点の中にある。そういった視点でも何かあればご意見をいただきたい。

山 田 委 員 C者の6年生、311 ページに「図を使って考えよう」があり、私はこれは論理的に物事を考える上で大変重要だと思っているが、これともう一つ、その前のところで、プログラミング的思考について扱ったところがあった。278 ページである。ここもそうなのだが、これからいわゆるプログラミングが多く入ってくると思うのだが、順番に考える、問題を分けて考える、順序立てて考えるということは非常に重要になる。これは発展的な学習が展開できるように配慮しているところになると思うのだが、これはB者だとどこかに載っているのかお聞きしたい。

指 導 主 事 例えば、B者の6年生、12、13 ページ、こちらにも図を使って整理する「デジタルノートの作り方」ということで整理してある。同じ対応をしているとなると、このページが該当すると思われる。

教 育 長 他に確認したい点等あれば、お願いします。

後 藤 委 員 今山田委員が発言した、プログラミング的思考や、最後の表は大変見やすかったのだが、それと対応するところが、6年生のこのページだけだとすると、C者が良いのではないかと思った。

比較として、B者の2年生の下巻の30 ページと、C者の2年生の下巻の29 ページの「ことば」で主語と述語について説明がされているのだが、2年生が初めて出会う文法だと思った。その説明で、B者は文字を同じ色で書いてあるが、C者は構成が工夫されていると思う。配置が、29 ページから30 ページと見開きではないが、「主語と

述語に気をつけよう」の分かりやすさ、伝わりやすさは、構成の面でいくと、C者の方が、2年生の児童にも伝わる作りで工夫されていると思った。

やはりいろいろな言葉に触れてほしい、いろいろな言葉を知ってほしいということがあるのだが、前に山田委員もおっしゃっていたが、日本の四季のいろいろな言葉が様々なところに配置されていて、ほっとしたり、美しいものに触れたりできる。C者の方が四季の言葉が多くて、私は子供たちにはこういった言葉にしっかり触れて、記憶に残してほしいと思った。

国語は、時数が多い教科なので、教科書の情報量は多くても良いと思う。

梅田委員 どちらも工夫して作られているので、なかなか難しいところではあるが、例えば「お手紙」という題材で考えると、B者は2年の下巻114ページから、C者は2年の下巻の頭、13ページから始まっている。扱っている題材は同じなのだが、やはりここもB者の方は自分と比べて読むということ、C者の方は自分と比べて読んで、登場人物に手紙を書くということが取り上げられている。その後、「主語と述語に気をつけよう」という題材が「お手紙」の後に来ている、お手紙を書く中で、主語と述語に気を付けて書くということまで発展させて、つなげて考えられるようになっているのではないかと思う。「主語と述語に気をつけよう」という単元のところでも、「かえるくんが言う。」や、「お手紙が来る。」、「がまくんはしあわせだ。」という形で、主語と述語が示されていて、基礎的・基本的なことの定着を図って、実際に今自分がお手紙を書くことを通して定着が図られるのではないかと感じた。

先ほどあった、最初に見渡す、見通すということについてだが、そこについては、C者はどの教科書も冒頭に国語の学びを見渡そうというページが付いていて、学習や生活の中で「問いを持つ」、「見通しを持つ」、「話す・聞く」、「書く」、「読む」、そして振り返って学習や生活に生かすというのは、どの学年でもここで挙げられているので、1年生の最初は出てないが、2年生以上はこの学び方で繰り返して学んでいくので、基礎・基本の定着につながるだろうし、同じ学び方をしていく中で、見通しを持つということができるようになるのではないかと考えた。

私自身が思うのは、最後の「ふりかえろう」という振り返りの部分で、C者の方は「知る」、「読む」、「つなぐ」ということで、さらに発展的な内容としてつなぐ内容が出てくる。「お手紙」で言うと、今までに読んだお話の中で自分と比べたい登場人物は誰か、自分はどう思ったかということに発展させている。それがB者だと130ページで、お話を読んでどんな感想を持ったか、友達の感想を聞いてどう思ったかというところで終わっている。もちろん皆がある程度同じ部分を学ぶということは大事だと思っている。児童にある可能性というのは、最大限引き出していく必要があるもので、児童が国語というものに対して、面白いと思って興味を持って、さらに学んでみたいと考えを広げていく可能性をC者は大切にしていると私自身は考えている。

花淵委員 梅田委員がおっしゃるとおりだと思うが、全部を児童に期待するというのは難し過ぎるのではないか。当然、お手紙を書くところまで広げるというのは、必要だと思うが、まずは地の文をきちんと理解することが大事ではないかと思っている。先ほど後藤委員が言っていた主語と述語について、述語という漢字が平仮名になるのか、漢字で振り仮名を振るのかという部分も含めると、中、下位群の児童にとっては少し難しいと思う。述語という漢字も読めなくなってしまうのではないかと感じた。そうするとそもそも読めない字があるということで抵抗を感じてしまうところもあるので、私

はまずは丁寧に、基礎・基本からというところで、プラス・アルファの部分について、伸びたいという児童にとっては、当然伸ばしていく必要があると思うが、まずは基礎・基本をきちんと押さえるという部分が大切なのではないかと思う。

B者の場合、「言葉の力」というところが、1文なのだが、C者の方の目標や目当てというところは、2文になっている。二つあると、例えば、説明の仕方に気を付けて読み、それを生かして書こうと、二つのことを要求しているのと、ここは書くど読むが両方あるから二つあるのかもしれないが、まず1つのことをしっかりやりましょうというのを与えて、児童と一緒にやり、それにプラスするというのが大事ではないか。基礎・基本の定着という意味からすると、私はB者のつくりの「言葉の力」というところをきちんと押さえるという学習の仕方が仙台の子供たちに合っているのではないかと思った。

教 育 長 両者、複数の声が今上がっている。B者、C者ということで、皆さんから仙台市の採択の観点についても、最初に示したのに加えて、もう一つの観点についてもお話をいただいたところだが、なかなかどちらにするというようなことにならない。B者もC者もどっちも優れているということの証だと思う。B者、C者、どちらを選定したとしても、学校現場で使用する際には、先生方の工夫はもちろん、そのような教育につながると思う。その上で、前回、今回にわたって伺って、なかなか1者に決められないでいる状況だが、それでも1者に絞っていかなくてはならないことから、私からも意見を述べさせていただければと思う。その上で、改めてご意見いただいて決めたいと思うがいかがか。

(異議なし)

教 育 長 B者については、一つ一つの単元の冒頭に、学習のねらいや、その単元で身に付けたい力というのが明確に示されていて、児童が学習の見通しを持って、課題に向き合って学習を進めることができるという形になっている。その上で、児童のつまずき、苦手な内容についても、計画的に配置されていて、それを意識しながら単元での学習が進んでいくと思う。また、現代的な課題や、科学技術、そういったテーマについての題材も取り上げられている。

C者については、単元ごとのアプローチの仕方がB者とは違っているというのもあって、教材との出会いを大切にして、単元の導入をしているつくりとなっていると思う。児童の疑問や、気付きなど、そういったところから学習の状況を確かめて進んでいる形になっていると思う。その単元で身に付けたい学習のポイントが、言語活動と一緒に示されているということも特長であると思う。また、日本の伝統文化に関する内容の題材が比較的多くあり、四季との結び付きや、日本語の持つ言葉の意味といったことにも触れられているというようなお話があったと思う。両者とも良さがあるので、そのコンセプトの違いということはあるが、どちらが優れているかという視点は非常に難しいと思う。

仙台市の小学生の実態という話もあった。仙台市標準学力検査の結果などからも、理由や事例などを挙げながら話すこと、説明文において叙述を基にして段落を捉えて読むことなどに課題があるような指摘もあったところではある。なかなか難しいのだが、確かに子供たちの実態というのは、様々だということはあることを考えていかななくてはならないと思う。一方で、学習の見通しというのを自分で考えたり、進めたりしながら、自分はどうかなということを書いていくことも大事で、そうしたことに

取組みながら、書く力を付けていくということなのだと思う。さらに、それを言語活動にどのようにしてつなげていくかというような視点がこれからの時代を生きていく子供たちにとって必要なことなのだろうと思う。

B者については、現代的な課題について、多く扱われているという部分があり、それは大変良いことだと思う一方で、C者のほうで日本語の持つ響きなどにも触れているということで、日本語そのものをどう見るかというのは、国語でできることなのではないかと思う。そういったことで、いろいろな題材が使われていることも踏まえながら、言語感覚を養っていくという視点などを考えると、様々な児童を相手にするという部分はあるのかもしれないが、どちらかというとならぬC者なのではないかという印象である。

私の意見も述べさせていただいたところだが、引き続きどちらにしたらよいかという視点で、皆さんのご意見をいただけたらと思う。

梅田委員 先ほど、児童の様々なレベルを考えてというようなことを、花渕委員も言ってくださったが、もちろん児童の実態はいろいろだと思う。ただ、どう教えるかは、そこに関わってくる教師の専門性であって、この教材をどう児童に教えるかは、教材研究を十分していかなければいけないと思う。特に国語については、いろいろな教科の基礎になる部分なので、教材研究は非常に重要だと私自身も考えている。先生方が忙しいということも十分分かった上で言っているのだが、だからこそ、もし忙しくて教材研究ができないということが万が一あるのであれば、それは働き方を変えて、十分な教材研究をできるようにしていかなければならないし、それに足るような教師の専門性というのを全ての先生が持つということは、いろいろな先生がいるので難しい部分ではあるが、専門性を高め、教えるプロとして子供たちに何を身につけさせたいかということをしっかり捉えて指導しなければならないと私自身は考えている。

幾つかの目標があって、もちろん高い目標も例えばC者にはあるのだが、必ずしもそれは全ての子供をねらうということではなく、この子供たちはどこまでを狙うかということは、やはり教師が一人一人の子供を見ながら、その力を把握して考えていくべきことではないかと思う。だから、「準備としてはここまでであるよ。でも、例えば今日の進み具合ではここまでしか行かなかったね。もう少しあとやってみようか。」あるいは、「この教材ではここまでしかできなかったが、次の物語教材でまたつなげていこうか。」というようなことは、指導の範囲内で十分できることだと考えている。より子供たちが充実した言語活動を行っていくことができるように、あるいは自分の考えをしっかりと自分の言葉で発表できる、発言できる、人に伝えられる、あるいは人の発言をしっかり聞いて理解できるという言葉の力を身に付けていけるようにするという事を考えると、私はC者がいいのではないかと考えた。

後藤委員 C者の教科書が、下位群の児童に難し過ぎるということは、決してないと思う。例えば、6年生の教科書の66ページの「文の組み立て」にしても、カードを並べ替えて文をつくりましょうという手法を提示しているのは、勉強についていけない児童も、こういうやり方ならきっと入っていけるだろうというところで、幅広いところを提案していると思う。先生方は、いろいろな教科書の様々な教え方を学んで、自分の教えるスキルをさらに向上させることが、児童にとって幸せなことだと思うので、教材研究は大変だと思うが、いろいろなアプローチの仕方を学んだ先生に児童を教えていただきたい。したがって、Cの教科書を推薦する。

花 瀨 委 員 先ほど教育長から、仙台市の子供の実態という話があった。ここが今仙台市の子供たちは落ちているから、ここに力を入れなくてはならないというのが、もし分かれば教えていただきたい。

教育指導課長 担当指導主事から回答する。

指 導 主 事 調査研究委員会で話題になった内容をお答えする。

小学校国語の本市の学力的課題に対する対応状況についてということだが、本市では、情報と情報との関係を意識して構成を考えて書く力に課題が見られる。加えて、特長についてだが、B者については、「読むこと」に関する単元と「書くこと」に関する単元の橋渡しとして、「情報のとびら」を設定しており、「読むこと」で身に付けた資質・能力を、「書くこと」の学習に効果的に結び付けられる構成となっているとの特長を上げている。

C者については、思考ツールを使って情報を整理する方法や、整理した情報を伝えるときの言葉を確認することができるように配慮されており、情報の扱い方の小単元の後に、書くことの単元を設定することで、情報と情報の関係と構成を意識して効果的に書くことができるように工夫されている。以上のような特長が取りまとめられた。

花 瀨 委 員 具体的にはB者、C者の教科書のどこに当たるのか。

指 導 主 事 B者は、6年の60ページ、こちらに先ほど調査研究委員会で話題になった「情報のとびら」というページが示されている。C者は、思考ツールを使って情報を整理する方法について、先ほど委員の皆様からも話題に挙がった、6年、311ページ等が該当する。

梅 田 委 員 多分それでいけば、同じ6年生C者の教科書の65ページで、情報を整理する単元「主張と事例」で関係を捉えるということが出てきて、その後に短歌の単元ではあるのだけれども、「たのしみは」ということで、表現の方法を工夫しながら書くことが出てくる。あるいは、その後74ページでも「情報と情報をつなげて伝えるとき」という情報を整理する単元の後、「デジタル機器と私たち」とをつなげて書くような単元構成になっているところは、今のB者の60ページと、その後続く単元構成と同様ではないかと思った。

山 田 委 員 C者は5年生の63ページに「原因と結果」というのがあって、B者は6年生の60ページにある。両方比較して見てみると、B者のほうは、原因から矢印で結果に行っていて、C者は結果から原因に矢印が行っている。内容はどうであれ、本来は結果から原因を推測するという流れだとは思った。B者も、こちらの漫画の解説は、最初に結果が出ていて、そこから原因はこうだと思うと、話の中ではそうなっているのだが、この矢印は違和感がある。多分これは、社会に出てからも非常に重要で、いろいろな結果というか、ある現象、事象が起きた時に、そこから原因を推測して、そこから対策を考えて、それを評価するという、いわゆるPDCAもそうなのだが、その考え方はやはり身に付けなければならないと思う。単純比較で言うと、B者とC者の同じ内容では、こういう違いがあると思った。

あと、先ほど教育長が言っていたように、B者は現代的な問題を取り上げているが、それは国語ではなくても良いのではないかと、私はまさにそう思っていて、プラゴミなどもそうなのだが、社会科など、他のところでも多く出てくる話で、やはりC者のように、古典だったり、詩だったり、漢字だったり、ふだん自分からなかなか読みに行かない、目に触れないようなことを学ぶことなど、そういえばあのときあんな作品

あったと思えるという、言葉に対する情報や、物語も普通は読まないような物語が多く入っており、そこは重要であると思ったので、C者が良いと思っている。

教 育 長 そのほか、ご発言あればお願いしたい。C者を推すという発言重ねていただいているが、そのほかのご意見があればと思うがいかがか。

これまでB者かC者ということで、先週から引き続いて、難しい選択を迫られて、今まで議論してきた。B者もC者もそれぞれ大変よい教科書ということで、これだけ時間がかかったと思う。B者、C者、それぞれのご意見をいただきながら、ここまで来て、重ねてのご意見を今伺い、B者も大変良い教科書だと思うが、C者ということでもよろしいか。甲乙付け難いところだったとは思いますが、皆様からそれぞれの良いところを挙げていただいた。実際、これを使って学ぶ児童、それから教える先生方に、是非ここでいろいろ出された話をさせていただけるように、我々もやっていかなければならないと思う。

それでは、C者ということで、事務局で採択理由など、今出していただいたので、そういったものを取りまとめていただいて、7月25日の教育委員会で最終的に決定したいと思うが、よろしいか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、以上で本日予定されていた日程については終了する。次回7月21日は、小学校教科書の「特別の教科 道徳」、「社会」、「地図」を予定している。また、特別支援学校・特別支援学級の一般図書、文部科学省著作教科書の採択についての審議を行う。

4 閉 会